

其の後姉上様には又〜く馬無垢迄致し  
 ました。海内皆々様おあがり存りやせんか  
 一寸お伺ひ申す。降の山生野村一同  
 遊遊者にて居り。父上も作年より加  
 大へんえ。氣にて治まの〜りき〜して居  
 ります。故時安心下さうませ。

昨日は水加流の如く早一針を立す  
 した。作年姉上様。今日、四日、歸  
 れ右のひす。井戸の水も何かいゆ〜無  
 くよしより。行ふよ〜よろこんで度々  
 ぶ。〜して居ります。改に本年の農作は  
 父保あ右り。〜は、今が（ま）引の〜土  
 赤。お月ひす。お兄上様の米もよ〜

了事しく思ひなす

汝に趣さん今ごろは何加出来て居りませうか

曰取早アちかにおれたか、日本よりかよぬせう

此も日本の事を思ひ出せば今に目<sup>何事か</sup>の端に見

えるよりには、あるか、私たつて趣さんの事を

思ひ出せば~~其~~免々お面白事や又か

わいかつた事——大くさんたのしみ

今迄お秋の取入も趣さんが居らあつて大分ちか

ひにたで、夜、日る働たかり参りまきも早くすま

し米も出上りまゝた作金よりお羨も少かつた

お羨さん少しはお使ひ下さる也、

おは、お禮致しませう、改第に寒たすお皆々様

お身大切に御おさいませ、

さようお

兄上様 一回

陽

海野絹太郎様

岡山縣人

(B)



Mr. K. Uno  
Route 5 Box 8  
Seattle Washington  
U. S. A.



岡山縣總務部

宇甘西町年倉

河田幸次郎